

●事業概要

認定期間: 2019年9月～2022年8月

研究チーム名 : 大分県の進行口腔がん撲滅プロジェクト

研究テーマ : 口腔がん早期発見のための総合的研究

●実施体制

大分大学医学部歯科口腔外科

中津市民病院歯科口腔外科、別府医療センター
歯科口腔外科、国東市民病院歯科口腔外科、
大分県立病院歯科口腔外科

後援:
大分県歯科医師会
中津歯科医師会
宇佐歯科医師会
豊後高田歯科医師会
臼津歯科医師会
佐伯市歯科医師会

後援:
姫島村国
民健康保
険診療所

共同研究:
カトマンズ大学
医学部顎顔面
口腔外科

●研究・活動内容

1. 大分県における口腔がんならびに口腔潜在的悪性疾患(口腔前がん病変)の疫学調査
2. 口腔潜在的悪性疾患(口腔前がん病変)の遺伝子変化の検索とそれを利用した早期発見ツールの作製
3. 口腔がんと口腔内細菌の関連に関する研究
4. 大分県における口腔がん集団検診の普及
5. 口腔がん早期発見のための啓発活動
6. カトマンズ大学医学部との共同研究

●2017年～2022年の研究実績

1. 大分県における口腔がんならびに口腔潜在的悪性疾患(口腔前がん病変)の疫学調査

- ・ 口腔がん検診による調査:2008年～2021年の総受診者の延べ人数は8175人で、口腔がん9人(0.11%)、口腔潜在的悪性疾患は449人(5.49%)であった。
- ・ 姫島村の特定健診受診者を対象とした調査(2020年、2021年):口腔がん0人、口腔潜在的悪性疾患は2020年28人(5.52%)、2021年51人(7.93%)。姫島村の一般住民の口腔潜在的悪性疾患保有率は6%前後であった。

2. 口腔潜在的悪性疾患(口腔前がん病変)の遺伝子変化の検索とそれを利用した早期発見ツールの作製

- ・ 擦過細胞診の異型上皮検出精度:口腔がんおよび上皮内がんでは正診率90.1%(感度90.8%、特異度83.3%)、口腔白板症(代表的な口腔潜在的悪性疾患)では正診率42.9%(感度90%、特異度70%)と口腔潜在的悪性疾患では精度が低かった。
- ・ micronucleu頻度により遺伝子障害の程度:擦過細胞500個あたりのmicronucleu数は細胞異型のない口腔白板症が 31.2 ± 14.7 個、上皮性異形成が 57.4 ± 19.1 個、口腔扁平上皮癌が 72.4 ± 16.5 個であり、細胞異型の出現に伴いmicronucleuが増加した。
- ・ 17p13.1、3p21.3、3p14の遺伝子領域のヘテロ接合性欠失(LOH):擦過細胞検体を用いてLOHの有無と細胞異型との関連について症例集積中である。

3. 口腔がんと口腔内細菌の関連に関する研究

- ・ 口腔がんと歯周病の進行度に関連性を認めた。
- ・ 口腔がん組織から一部の嫌気性菌が高頻度に検出されたが、癌化との関連にはさらに検討が必要である。

4. 大分県における口腔がん集団検診の普及

- ・ 由布市、中津市、豊後高田市、宇佐市、佐伯市、豊後大野市、姫島村において口腔がん集団検診を実施し、検診結果を大分県歯科医師会月報、新聞紙面などで公表した。2020年からは新型コロナウイルスパンデミックのためこの活動は縮小している。

●2017年～2022年の研究実績 つづき

5. 口腔がん早期発見のための啓発活動

- ・ 一般市民向けの口腔がんに関する講演: 大分ケーブルテレビ番組「医療の道しるべ」や大分大学医学部公開講座などで口腔がんに関する情報提供した。
- ・ 大分県との共同で口腔粘膜疾患啓発のためのリーフレット「早期発見！口のがん」を作製し、県内の保健所に配布した。
- ・ 歯科医師を対象とした口腔がん早期発見の講習会: 2018年と2019年に歯科医師を対象とした「大分県における口腔がん個別検診体制の確立にむけてのセミナー」を開催した。2020年からは新型コロナのため休止中。
- ・ 介護者らを対象とした高齢者の口腔内観察法の指導: 宇佐高田介護支援専門員協議会研修会、国東市民病院主催「仏の里ネットワーク講演会」にて講演をおこなった。

6. カトマンズ大学医学部との共同研究

- ・ 2018年:9月22日・23日にネパール デュリケルにて住民の口腔がん調査を行った。
- ・ 2019年:9月8日・9日にネパール ビラトナガルのノーベル医科大学にて住民の口腔がん調査を行った。受診者: 400人、口腔がん1名、口腔潜在的悪性疾患51人(12.8%)。ビラトナガル住民の口腔潜在的悪性疾患の保有率は日本人の約2.5倍であった。

●今後の研究計画

口腔がんの死亡率を減らすため、進行口腔がんの治療法の改良とともに、口腔がん患者の早期受診を促すための“進行口腔がん撲滅プロジェクト”を継続し、一般住民の口腔粘膜疾患に対する関心を深めるための啓発活動をさらに強化する。さらにし口腔がん早期発見ツールの開発を行う。

今後の活動; 1) 現行の啓発活動を継続、2) 非侵襲的に採取する口腔病変の微量検体を用いた口腔がん早期診断ツールの開発研究、3) カトマンズ大学との共同で、口腔発癌に関わる遺伝子異常の検索。